全自交東京

全国自動車交通労働組合
東京地方連合会
〒151-0051東京都渋谷区千駄ヶ谷３－７－９
TEL03-3408-0876
FAX03-3408-0880
発行責任者　書記長　本田明広

全自交東京地連第１２８回定期大会

本木新執行委員長のもと新体制スタート

全自交東京地連は10月28日、板橋区の板橋区立文化会館ホールにて第１２８回定期大会を開催し、「ライドシェア新法阻止」、「ハイタク労働者の賃金・労働条件の向上」、「制度・政策要求の実現」などをスローガンに掲げ、新体制でのスタートを切りました。

今大会は任期満了に伴う改選期に当たり、新執行委員長には副委員長の本木弘氏（大和）が選出されました。

新たに選出された本木弘新執行委員長

本木新執行委員長は就任の挨拶の中で、「第１２８回ということで、たくさんの先輩方が築いた歴史があります。その伝統を継承しながらも、時代に則した運動をしていかなくてはなりません。また、東京地連は全国をけん引していく労働運動をしていかなくてはならないと思っております。そのためにも、今日出席している皆さんが新しい運動方針を現場に持ち帰り、組合員さんひとりひとりに届けていただきたい。そして全自交東京地連に結集する全員が一丸となって運動を進めていきたいと思っておりますので、皆様のご支援ご協力をお願いします。」と述べました。

大会は冒頭、開会の挨拶に立った掛川正一副執行委員長（帝都労組）から議長団の提案が行われ、議長に野口紘史さん（日交労）、書記には道上一弘さん（帝都労組）の両名が選出されました。

その後、林三樹郎資格審査委員長（大和）から大会への参加人員と大会が成立したことの報告、堀田貴彦大会運営委員長による議事日程の確認と続き、それぞれ確認されました。

続いて、主催者を代表しての挨拶には、病気療養中の内田亨執行委員長（大和）に代わり、菊池るみ副執行委員長（東洋）が登壇し、挨拶の中でタクシー労働者の賃金の実態について触れ、「連合の２０２５年春闘集計によると平均５％を超える大幅賃上げが実現しています。しかし、ハイタク業界の２０２５春闘では一定の成果はあったものの、賃上げはおろか、春闘交渉の過程で事業者から労働分配率を見直す逆提案をされるなど、いつまで経っても歩合制賃金の不安定さから抜け出せずにいるのが実態です。」と述べました。そのうえで今後の運賃改定を見据えた事業者側との賃金交渉において、「雇用の安定継続も加味して改悪変更とならぬよう細心の注意を払い交渉を進める必要があり、労働組合のその責任は重大です。」としました。また、「一度別々の道を選んだ私たちが、団結を回復して４年半が経ちました。今では、全自交労連に結集する１万人の心に、一つの魂が宿っているはずです。東京地連に結集する私たちが、その先頭に立ちましょう。」と呼びかけました。

来賓あいさつ

続いて、大会にご臨席いただいた来賓の方々の紹介があり、それぞれのお立場からの御祝辞を頂きました。

冒頭、全自交労連の溝上泰央中央委執行委員長は挨拶で、「先の参議院議員選挙において、我々の運動にご尽力を頂いた森屋隆氏をふたたび国政の場へ送り出せませんでした。今後の交通政策に大きく影響してくる事は避けられませんが、後退する事のないよう全自交労連として今まで以上にしっかりと取り組んでいきたいと思います。」と述べました。

また東京のタクシー労働者に向け、「今後は安全・安心、接客・接遇は当たり前、キーワードは迅速と交通秩序の二点だと思います。地理試験が無くなったからと言ってナビに頼りきりであったりでは工事や事故に対応できません。一番稼げる東京だからこそ運転者のスキルアップを忘れないことが大切です。」と述べました。

今大会にご臨席いただいた来賓の皆様は以下の通りです。◆全自交労連・溝上泰央中央執行委員長◆立憲民主党・伊藤俊輔衆議院議員◆都議会立憲民主党・中村ひろし（交通政策調査会会長）、都議会立憲民主党・竹井ようこ（都議会立憲民主党幹事長）◆東京共同法律事務所・中川亮弁護士、古賀玖美弁護士◆西東京共同法律事務所・森井利和弁護士、石井光太弁護士◆中央労働金庫東京都本部・中田晶一常務理事、中村沙織上席調査役◆こくみん共済ｃｏｏｐ東京推進本部・福田智本部長、組織法人二課石原達司様。

（以上敬称略）

東京地連２０２５年度運動方針決定

本田明広書記長より、ライドシェア新法断固阻止をはじめとした、第一号議案『２０２５年度運動方針（案）』ならびに、第2号議案『２０２５年度会計予算（案）』が提案され、議案ごとに質疑、討論が行われ、それぞれ満場一致で確認され、２０２５年度運動方針が決定されました。

運動方針を提案する本田書記長

続いて、藤田健一役員推薦委員長より、改選役員（案）が提案され、以下のとおり賛成確認されました。

◆執行委員長・本木弘（大和）◆副執行委員長・掛川正一（帝都）、須藤正己（京自労）、菊池るみ（東洋）、小林健夫（三交労）◆書記長・本田明広（京自労）◆書記次長・奥村公章（日交労）◆顧問・溝上泰央（日交労）、◆執行委員・星元陽（日交労）、藤田健一（日交労）、玉川禎（帝都）、吉田昌央（帝都）、堀田貴彦（京自労）、矢野裕明（京自労）、林三樹郎（大和）、吉野恭章（大和）、青木康至（ワイエム）、大山信之（荏原久が原）、三上幸光（平和）、畑中春樹（大日本）

以上

『ライドシェア完全解禁』絶対阻止！ 地域公共交通は我々が守る！ 全自交の力を未来へつなぐ！

全自交労連第83回定期大会

代表しての挨拶に立つ溝上中央執行委員長

全産業平均を上回る賃金・労働条件の実現！

全自交労連は10月20・21日、横浜市の管内ホールにて第83回の定期大会を開催しました。全国より２００名が結集して開催された大会では、前書記次長の本田有氏が新書記長に選出されるなど、新体制のもと新たなスタートを切りました。

主催者を代表しての挨拶に立った溝上泰央中央執行委員長は、冒頭平和運動について、「人類史上、初めて原子爆弾の犠牲者になった我々日本国民として、やはり核兵器の廃絶と世界恒久平和うお今後も訴え続けねばならない。」と述べた。次に国内政治について、我々の先頭に立って、ライドシェア阻止に尽力してくれていた森屋隆さんを国政に戻すことができなかったことに触れ「痛恨の極みだ」と述べました。

また、新たに発足した高市政権について、「日本で右傾化が進むことが懸念される」と述べ、自民党と維新の連立政権に対しては「我々の労働運動の根幹である多様性や包摂性と、真逆な社会が出来上がらないよう、しっかり注視しなければ」と述べました。

またハイタク労働者の待遇向上にむけ「コロナ禍以降、地域間格差や企業間格差が大きくなっている、利益を上げられる都市部、観光地では、わずかながらでも結果を出した」と２０２５春闘を総括。その上で「事業者が適正価格をしっかりと見据え、迎車料金や運賃以外の対価を自信を持って設定することが重要」とし、「我々労働者も生産性を意識した営業、さらには労働分配率を見極めること、この２つが要求を叶える生命線になってくる」と述べました。さらに、「われわれ全自交労連は、『人は財産だ』と位置づけ、安心して長く働ける職場、魅力ある賃金・労働条件を構築する運動をさらに前進させる所存だが、皆様のご理解とご協力が無ければ、要求の実現も『夢のまた夢』となる。引き続きのご協力をお願いする」と訴えました。

また東京や兵庫仲間が闘っている裁判闘争への、全国の仲間の支援に「心から謝意を申し上げたい」と語り、会場内で実施するカンパへの協力を呼びかけました。

改選年に当たり「先人が目指した労働運動を、我々後進がしっかり引き継ぎ、全自交労連は持続可能な組織として、これからも日本のハイタク労働者の先頭に立って牽引していく」と語り、今大会での、未来に向けた運動方針の確立を期待し、「ハイタク産業の明るい未来に向けて共に頑張りましょう」とあいさつを締めくくりました。

運動方針提案

野尻書記長が２０２４年度活動報告を提案し、東海ブロックと北信越ブロックの結成、広島地本の再建、万博ライドシェアへの抗議行動、神戸相互タクシー労働組合の争議を特筆すべき出来事として言及しました。

運動方針の提案では、「ライドシェア完全解禁を阻止すること、地方の公共交通を守ること、そして組合役員の高齢化が進む中で全自交運動を未来につなぐために若い力・人材を入れていく事が大切だ」との考えを示しました。

また日本版ライドシェアに関し「なんでもかんでも緩和では、完全解禁と変わらない。終了基準を明確にさせる運動をしていく」と述べました。

労働条件の改善に向けては「他産業に負けず物価高を上回る賃金、ハイタク労働者が安定して生活できる賃金を目指していく」と提案しました。

本田 新書記長就任

役員改選を迎え、新書記長には本田有書記次長が選出されました。

本田新書記長は、愛知地連・名鉄交通労働組合出身。愛知地連の執行委員長を４年間務めた後、２０２２年の第８０回大会で書記次長に選任され、政治担当としてライドシェア阻止運動の重要な役割を担ってまいりました。

東京地連第４回地区連対抗ボウリング大会

TOTAL2297で城南地区連チームが優勝！

恒例となる、東京地連地区連絡会議対抗のボウリング大会を、11月11日、世田谷区のオークラボウルにて、総勢40名が参加して開催しました。

大会は、東部、西北、中央、城南、三多摩の５ブロックの地区連から、各チーム４名×２チームの、合計10チームにて争われました。

優勝は、全自交平和労組のメンバーで構成された城南地区連Ａチームが、トータル2297で見事に栄冠に輝きました。第２位には、２１３８で東部地区連Ｂチーム（帝都墨田）が、第３位には西北地区連Ａチーム（日交労赤羽）という結果となりました。

上位３チームには後日、賞状と賞品が贈られました。

ボウリングは誰でも気軽にできる競技なので、会場のキャパとの相談にはなりますが、今後は開催規模の拡大も検討していきたいと考えております。

第４回地区連対抗ボウリング大会結果

	レーン	チーム		1	2	3	TOTAL
優勝		城南地区連Ａ		713	780	804	2297
	27	イデイ　ヒロヤス	全自交平和	191	244	234	669
	27	ミスミ　マコト	〃	180	170	147	497
	28	ハマオカ　シュンペイ	〃	171	192	200	563
	28	タケダ　ヒデノリ	〃	171	174	223	568
第２位		東部地区連Ｂ		744	694	700	2138
	15	ツジ　ミツヒロ	帝都墨田	200	166	167	533
	15	タナカ　ショウタ	〃	171	191	198	560
	16	トヨダ　マコト	〃	149	171	145	465
	16	ヨネダ　トシヤ	〃	224	166	190	580
第３位		西北地区連Ａ		608	727	729	2064
	21	カワハラ　サトル	日交労赤羽	137	159	161	457
	21	コウジ　タカアキ	〃	163	177	189	529
	22	ヒライワ　マサヨシ	〃	136	179	201	516
	22	タカハシ　ワタル	〃	172	212	178	562

（敬称略）